

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハート愛		
○保護者評価実施期間	令和7年11月20日		～ 令和7年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年11月20日		～ 令和7年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○恵まれた環境 同一敷地に、法人の他の事業(成人向け等)も展開している。大人の方との空間や活動の共有等で、日々の生活の充実を図っている。また、高齢者の住人がほとんどの地域であるが、活動への協力をいただいている。さらに、車移動ではあるが近くに文化、スポーツ施設等あり活動の充実につながっている。	○機会を捉えた交流 県知的障害者福祉協会主催の文化的行事や当法人の「秋祭り」等、成人の方々と共有できる活動については、働きかけている。また、地域の高齢者の方々にも役割意識を持っていただけるような活動準備をしている。さらに、「ボランティア花壇」参画で地域の機関との連携も広げている。	○交流の幅の拡大 現在の地域の高齢者との関わりだけでなく、校区コミュニティ協議会や校区社会福祉協議会などにつながることで、幅広い年齢層と関わる機会が増えると考えられる。また、法人の新しい事業所を拠点にした交流の充実も探りたい。
2	○多様な支援人材 他業種を経験した人材の集まりで、得手・不得手も多岐に渡っている。その事が、日々の活動の幅の拡大、柔軟で適切な支援の提供を可能にしている。結果的に、公開療育時及び保護者評価の高評価につながっている。	○特技を生かしたした役割分担 様々な経験・資格(保育所、幼稚園、特別支援学校、公認心理師等)を基に、職員がそれぞれの専門的知見を生かして支援活動に当たっている。足りないところは、外部講師等契約して支援の質の向上に努めている。	○支援の精度向上のためのアセスメント 日々の観察、聞き取り等に加えて、標準検査(社会生活能力検査)結果を基に、5領域及び当事業所の9分野を織り交ぜながら、活動を組み立てている。蓄積データを基に、よりよいプラン作成に取り組みたい。
3	○保護者との支援情報共有による信頼関係構築 毎日の活動及び各児童の行動記録を、その日のうちに児童に持ち帰っていただいている。音声言語等で事業所の様子を御家族に伝えることが苦手な児童でも、家族と話題の共有ができ、御家族からも好評を得ている。	○支援記録様式の工夫 これまで同様、活動計画及び記録用紙に「配慮事項」等を丁寧に記述しておくことで、児童の行動の背景等を理解しやすくしている。	○保護者、進路先支援機関への情報提供の充実 「活動記録」のみならず、危機管理訓練情報等も分かりやすい形で提供してきた。これから高等部卒業生も次々に控えており、今後は進路先への情報提供も意識した移行支援の充実を図りたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○障害のない児童との交流 以前、市街地(平場)にある児童クラブ(障害のない児童)と交流を計画したが、継続的交流に至らなかった。その後も良い形を模索しているが、実現できていない。	○立地面での課題 市街地からちょっと離れた山間部に立地し、地域の特性として、ほぼ高齢者世帯である。そのため、毎年、近場で評価項目32の「放課後児童クラブや地域の他の子どもと接する」ことが難しい。	○地域での活動を核にした活動の拡大 昨年度から地域の方々に活動(餅つき大会)への支援を呼びかけ、主体的に御参加いただいている。この関係をさらに広げたい。また、法人が近くの平場の住宅地にGH等を開設している。ここを核に周辺の児童クラブ等を開拓することも考えたい。
2	○施設の整備状況 従来、大人の方の居室等で使用していた空間を、放デイ用の施設として活用している。多くの改造で使いやすくなっているが、利用児童定員10人前後に対応するトイレの絶対数など、不自由な点がある。	○苦戦気味のソフト面での対応 法人の将来構想との関係で、年次計画で整備がなされているが、放デイの児童の現状にやや追いついていないところがある。(時間差での使用や大人の居室のトイレ使用など)	○法人の将来構想への参画 現状課題を整理して、放デイとしての理想的な到達点を法人に提案することで、将来構想と折り合いを付けていく必要がある。
3			